

Q1. 児童生徒会や委員会活動の構成・役割は？

- ・ 児童生徒会は 1～9 年生の全学年で組織
- ・ 委員会活動は 5～9 年生が対象。「学校全体の委員会」と「5・6 年生独自(前期課程)の委員会」の 2 段階で運営
- ・ 本部役員は 5～9 年生から選出、6 名程度で構成

Q2. 通学方法やスクールバスの運行体制は？

- ・ 通学はスクールバス／保護者送迎／自転車(中学生から)の 3 通り
- ・ スクールバス自己負担額(年間):小学生 約 12 万円／中学生 約 6 万円(市補助あり)
- ・ 和泉府中ルート・信太山方面ルートの 2 ルート(各 2 台編成)。朝 1 便、下校時は最大 4 便運行
- ・ 乗車確認は年度当初は丁寧に実施。慣れた後は各自の自己責任が基本

Q3. 旧校区の児童生徒への無償化条件(距離基準)は？

- ・ 旧横山小・南横山小区域が対象。前期課程は通学距離 2km 以上、後期課程は 4km 以上で無償
- ・ 基準は自転車保険の適用範囲(2km)や自治会エリアを踏まえ市教委と協議して設定
- ・ 遠方の旧南横山小地区は全学年が無償対象

Q4. 制服の導入状況や保護者からの反響は？

- ・ 前期課程・後期課程とも全員制服を導入
- ・ 統合前の 2 校(横山小・南横山小)も制服だったため、大きな混乱や反対意見はなく好意的
- ・ 移行期間中は旧小学校の制服も着用可。あと 1 年ほどで新制服へ完全移行予定

Q5. 校区外からの児童生徒を呼び込む広報活動は？

- ・ 市教委ホームページへの掲載に加え、7～8 月頃に市内幼稚園・保育園へポスターや案内を配布
- ・ 特別な宣伝をしなくても定員超過が続き抽選が発生。1 年生の倍率は約 4 倍と非常に高い

Q6. 抽選方法や兄弟姉妹の優先枠のルールは？

- ・ 在校生に兄弟姉妹がいる場合は優先入学の扱い
- ・ 兄弟姉妹枠や校区内転入(引越し等)で枠が埋まり、年度により一般募集枠が少なくなることがある

Q7. 特認校制度の位置づけと他校への影響は？

- ・ 市内で特認校制度を導入する義務教育学校は槇尾学園のみ(旧南横山小の小規模校対策を継承)
- ・ 全域から満遍なく募集しており、特定の小規模校からの大量流出といった懸念の声は生じていない

【参考】和泉市立槇尾学園 視察当日の質問まとめ

開校準備委員会向け情報共有資料〈裏：教育活動・施設・スケジュール編〉

Q8. 水泳授業の外注・民間スイミングスクール活用は？

- ・市は令和 4 年度から民間活用を推進し、現在は市内全 18 小学校で実施
- ・本校はバスで 10 分程度の民間施設を利用し、学年ごとに年間 5 回程度実施
- ・送迎バスの手配・安全管理も事業者と連携して実施

Q9. 小中の乗り入れ授業、教員の負担感はある？

- ・後期課程(中学校)の教員が前期課程(小学校)の専科・外国語指導に入る体制
- ・中学校側は持ちコマ数の平準化、小中のギャップ解消につながり好評
- ・小学校側も空き時間の確保や専門指導の導入という大きなメリット

Q10. 部活動の地域移行や他の活動への対応は？

- ・学校の部活(チーム競技)はバレーボールとバスケットボールに限定し、個人種目中心に展開
- ・ジャズバンド部・空手部などで地域指導者を招いた「地域移行・地域展開」を推進
- ・野球やサッカー等は地域のクラブチーム・スポーツ少年団で活動

Q11. 運動会は小中別、文化祭は小中合同で開催する理由は？

- ・運動会が別開催の理由：①駐車場・交通対策(一斉開催だと 300 台以上必要)②発達段階・運動能力差への配慮
- ・音楽会・文化祭や地域のお祭り等は小中合同で一堂に会して開催

Q12. 「地域交流室」の用途や活用実績は？

- ・PTA 会議や地域活動の拠点、放課後児童クラブ(学童保育)のスペースとして活用
- ・正面玄関と別の独立した出入口を活かし、外部の視線に配慮が必要なカウンセリングルームとしても利用

Q13. 旧南横山小学校(サテライト施設)の管理・活用は？

- ・市職員(施設管理員)が週 3 日程度巡回・管理
- ・体育館・グラウンドを地域スポーツ団体へ貸出
- ・農業体験、裏山での体験学習、炭焼き・防災宿泊学習など、自然体験学習の拠点として有効活用

Q14. 省エネ対策や光熱費の現状は？

- ・屋上の太陽光発電は売電せず、発電した電力はすべて校内で自家消費
- ・メディアセンター等がオープンな空間構造のため全館空調が必要となり、単体校舎の学校より光熱費等の維持管理費が高い傾向

Q15. 新校舎の開校スケジュールの評価は？

- ・夏休み明け等の先行利用：新校舎の不備を事前に洗い出せる、春休みの引越しがスムーズという利点
- ・4 月一斉開校：全員が同じスタートを切れる一方、春休みの短期間に 3 校分の引越し・準備が集中し現場負担が非常に大きい
- ・実務・児童生徒の円滑な移行の面では、先行利用期間を設ける方がスムーズとの評価